

農業と科学

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

1984
4

58年度の農業生産はわずかに増加

農業所得は低い伸び

—農業観測の修正見通し—

農林水産省大臣官房調査課

田村 修一

本稿は、昨年12月17日、農林水産省から公表された昭和58年度の農業生産と農業所得に関する修正見通しのあらましである。

1 農業生産

58年度の農業生産については、耕種生産では多くの作物が低温、台風の影響を受け伸び悩み、養蚕は引き続き減少し、畜産も需要の停滞もあって、大きな伸びが見込まれないことから、全体としては1%程度の小幅な増加にとどまるものと見通される。なお、米を除く農業生産は、0~1%程度の増加と見込まれる。

(耕種生産)

米は作柄が「やや不良」になったものの、不作であった前年に比べれば0.9%の増加となった。

その他の主要作物では、茶、さとうきびが増加、麦、大豆、小豆、ばれいしょが減少となったほか、果実は4%程度増加、野菜はほぼ前年並みと見込まれる。以上から、耕種生産総合では、0~1%程度増加すると見込まれる。

(繭生産)

繭の生産は、養蚕農家や桑栽培面積の減少に加え、生産者団体による自主的な計画生産が行われたこと等から3%減少した。

(畜産生産)

畜産生産についてみると、肉用牛はわずかに上回り、豚は0~2%程度、ブロイラーは3~5%程度、生乳はわずかないしやや、鶏卵は0~2%程度それぞれ増加すると見込まれる。この結果、55、56年度と停滞した後、57年度に伸びを高めた畜産生産総合は1~3%程度引き続き増加すると見込まれる。

2 農産物生産者価格

58年度に入ってから農産物生産者価格は4~6月期に春野菜の上昇から2.2%の上昇となったあと、7~9月期は1.6%の下落となり、上期を通じては0.3%高のほぼ横ばいとなった。下期については、以下のとおりである。

(畜産物)

畜産物は、需要の停滞を反映し、肉豚、ブロイラーともわずかないしやや下回るとみられるものの、肉用牛、鶏卵はほぼ横ばい、生乳が上回るとみられることから、全体では前年度並みないし、わずかに下回ると見通される。

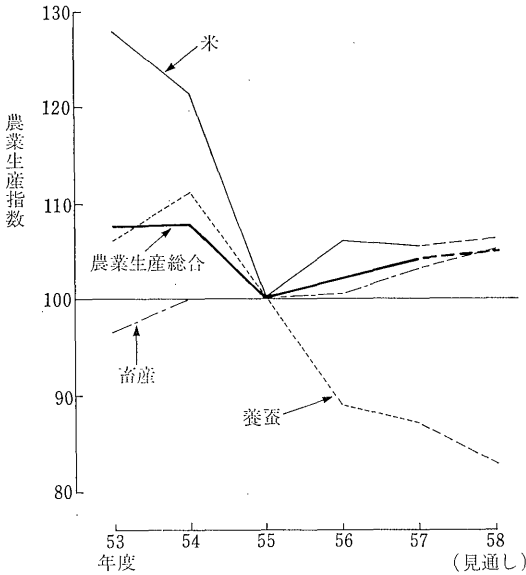
(果実・野菜)

果実は、みかんはやや下回り、りんごはかなり下回るとみられる。野菜は、露地野菜が上回り、たまねぎ、ばれいしょも堅調に推移するとみられること等から、ややないしかなりの程度上回るとみられる。

本号の内容

- § 58年度の農業生産はわずかに増加
農業所得は低い伸び……………(1)
58年度農業観測の修正見通し
農林水産省大臣官房調査課 田村 修一
- § 梅盆へのコーティング肥料の利用……………(3)
埼玉県浦和農業改良普及所 関口 明男
- § 戦後の社会経済の変ぼうに伴う
農業事情の激変と今後の土壌肥料問題…(5)
(その3)特に自給肥料の転換とその技術的問題
全農技術顧問 黒川 計
- § 与作V1号によるレタスの育苗……………(7)
佐賀県農業試験場三瀬分場 徳安 雅行
山間畑作研究室長

(55年度=100) 農業生産の動向



(行政価格)

米の政府買入価格が1.75%の引上げ、加工原料乳の保証価格が0.78%の引上げとなったが、麦の政府買入価格、大豆の基準価格は据え置かれた。

以上のことから、58年度の農産物生産者価格は、需要が伸び悩むなかで、耕種生産が0~2%程度、畜産生産が1~3%程度それぞれ増加すると見込まれることから、年度間では0~2%程度の上昇にとどまるものと見通される。

3 農業生産資材価格

農業生産資材の農村価格は、57年度に0.3%安となったあと、58年度に入ってから、原油価格の引下げや一般卸売物価の下落等を反映して弱含みで推移し、上期では1.0%安となった。この間、7月に配合飼料の工場建値が平均5.4%引き上げられたが、肥料の生産業者販売価格は、平均1.8%引き下げられた。

58年度下期の資材価格については、① 飼料は配合飼料の工場建値が、アメリカの熱波の被害による海外飼料穀物価格の高騰を反映して、10月に平均5.4%引き上げられたため、下期前半は強含みに推移するとみられる。下期後半も海外飼料穀物価格の動向等からみて、引き続き同様の水準で推移するとみられる。② 肥料は上期後半の水準で推移するとみられる。③

農業機械は、一般卸売物価の動向等からみて、おおむね安定的に推移するとみられる。④ 農業は、59農業年度の製造業者販売価格(58年12月~59年11月の間適用)が据置きとされた。⑤ 諸材料は、原材料価格の値上がり等を反映して強含みに転じるとみられる。⑥ また、このほかの資材についても、最近の一般卸売物価が落ち着いていること等からみて、おおむね安定的に推移するとみられる。

以上から、58年度の農業生産資材価格(総合)は、年度中は横ばい傾向で推移し、年度間では0~1%程度下回ると見通される。

4 農家経済

農家経済について58年度の上期の収支としてみれば、農外所得が一般賃金の伸び悩みを反映して、低い伸びとなったものの、農業所得が大きく増加したことが、農家総所得では6.4%増と比較的高い伸びとなった。

58年度を通じた農業所得は、① 農業粗収益面では、みかん、りんご収入は伸び悩むものの、主体を占める稲作、野菜収入が増加するとみられ、畜産収入も前年度を上回るとみられることから、2~4%程度増加するとみられる。② 農業経営費面では、農業生産資材の農村価格は、下期も落ち着いて推移するとみられ、投入もわずかな増加とみられる。また、固定資産の償却費はほぼ前年度並みの伸びとみられることから、年度を通じた農業経営費は3~4%程度の増加と見込まれる。以上から、全国1戸当たり平均でみた農業所得は1~3%程度の増加と回復の方向にはあるものの、農産物価格の低迷や生産の伸び悩みを反映し、低い伸びにとどまるものとみられる。

農外所得については、前年度の伸びに近い増加が見込まれる。農家総所得は、出稼ぎ・被贈・年金扶助等の収入が大きく増加すると見込まれることもあって、前年度の伸びを上回る5~6%程度の増加と見通される。

昭和58年度農業観測修正見通し総括表

項目	対前年度増減(▲)率(%)		58年度見通し(前年度対比)		
	56年度	57年度	当	初	修正
実質飲食費支出	0.9	程度 3.7	前年度に引き続き増加		1~2%程度増加
農業生産	2.0	2.0	2~4%程度増加		1%程度増加
農産物価格	2.8	▲2.1	米、麦を除く農産物総合ではほぼ前年度並み		0~2%程度上昇
農業生産資材価格	3.2	▲0.3	前年度並みないしわずかに下回る		0~1%程度下回る